第 326 回展示

春のこゑ
～蔵書で愛でる花と鳥～

会期：平成 28 年 3 月 22 日(火)～5 月 21 日(土)
会場：慶應義塾図書館 1 階展示室
主催：慶應義塾大学三田メディアセンター展示委員会

展示にあたって

三田メディアセンターにある本は、白い紙に黒い文字が並んだものばかりと思っていませんか？　実はきれいに彩色された図版を含む資料もたくさん眠っています。そこで、今回の企画展示では、色鮮やかな図版のある資料を紹介します。

図版の種類も多岐にわたりますが、今回は春という季節に合わせて、「花」と「鳥」にテーマを絞りました。展示資料は、貴重書から一般書まで、美しい図版があるという視点で選び抜かれた資料です。

今回は、特定のコレクションに限定せず、幅広く資料を選定しましたが、展示の中心となっているのは、塾員の博物学者・荒俣宏氏旧蔵の博物誌コレクションです。『世界大博物図鑑』執筆のために収集された荒俣氏の博物誌コレクションは、図版を含んだ資料が多く、世界各地の珍しい植物や鳥の姿が、実物と見間違えるほど鮮やかな彩色で描かれています。また、昭和 29 年（1954）から 30 年にかけて、文学部図書館学科（当時）で教鞭をとったボン教授が収集した浮世絵コレクションからも、明治日本の花のある風景が描かれた資料を展示します。このほか、和装本に描かれた見事な花々、超大型資料 Birds of America の迫力あふれる鳥の図版も紹介します。

これら古今東西の美しい図版は、きっとみなさまの心を癒やしてくれることでしょう。春の声が聞こえてきそうな華やかな図版の数々をお楽しみください。

慶應義塾大学三田メディアセンター展示委員会

＜展示ケース１＞ 荒俣宏博物誌コレクション（１）

Hooker, William Jackson. ***Pomona londinensis.***
London: Printed by James Moyes..., 1818-
（フッカー『ロンドンの果実』） [141Y@46@1]
　著者のフッカー（1785-1865）はロンドンにある王立植物園「キュー・ガーデン」の初代園長として知られ、英国における植物学の普及に尽力した人物である。図版は The Noblesse Peach「気品ある桃」。

Pfeiffer, Louis.
Abbildung und Beschreibung blühender Cacteen...
Cassel: Verlag von Theodor Fischer, 1843-1850.
（プファイファー『開花サボテン図譜』） [141Y@37@1]
　ドイツの医師で博物学者プファイファーによるサボテン研究書。1831 年のポーランド反乱の際には従軍外科医として活躍し、のちドイツとオランダを旅行してサボテン研究のための資料を収集した。図版は「Echinocactus longihamatus」エキノカクツス属、北米産のサボテン科の植物。

Bessa, Pancrace. ***Flore des jardiniers, amateurs et manufacturiers.***
Paris: Audot, Libraire..., 1836.
（ベッサ『庭師、愛好家、菜園経営者の植物誌』 [141Y@52@3@1～3]

図版は左からそれぞれ、アマリリス（Amaryllis grenesienne）、リンドウ（Gentiane a tige courte）、シャクヤク（Pivoine Moutan）。

Morris, Richard. ***Flora conspicua.***
London: Printed for Longman, Rees, Orme, Brown, and Green, 1826.（モリス『目につく花々』） [120Y@496@1]
　図版はレンリソウ属（マメ科の一属）、スイートピーの仲間の植物（Lathyrus Grandiflorus）。

Seligmann, Johann Michael.
Verzameling van uitlandsche en zeldzaame vogelen, benevens eenige vreemde dieren en plantgewassen.
Te Amsterdam: by Jan Christiaan Sepp..., [1772-81].
（セリグマン『外国の珍奇な鳥類と動植物集成』）
[142Y@24@1@4]

図版で紹介するドードー（Dodo）は 3 種に分けられるが、いずれも絶滅している。3 種のうちモーリシャス島のドードーは「不思議の国のアリス」にも登場することから最も著名で、絶滅鳥の代名詞ともいえる存在になっている。荒俣氏の『世界大博物図鑑』では、別巻 1 [絶滅・希少鳥類]に掲載されている。

Jonstonus, Joannes.
Ioannis Ionstoni Theatrvm vniversale de avibvs Tabvlis dvabvs...
[Heilbrvnnæ (Heilbronn)]: typis Christiani de Lannoy, 1755-1768.
（ヨンストン『鳥類図譜』）[141Y@54@1@2]

鳥は鳥でも、神話や伝説に登場する幻の怪鳥・妖鳥たちの図版は、医師であり博物学者であったヨンストン（1603-1675）によるもの。ペリカヌス（左上：自身の胸を突き、流れる血を雛に与え育てるとされた伝説上のペリカン）、炎の不死鳥フェニックス、貪食の女面鳥ハルピュイア（ハーピー）、鷲の上半身・ライオンの下半身を持つグリュプス（グリフォン・グリフィン）など、現代のファンタジー映画やゲームなどでおなじみの面々が描かれている。

Le Vaillant, François. ***Histoire naturelle des oiseaux d'Afrique.***
Paris: Delachaussée..., 1805-08.
（ル・ヴァイヤン『アフリカの鳥類博物誌』）
[143Y@9@6@1～6]

ル・ヴァイヤンの著作はフランスの博物学図譜黄金期のなかで最高峰に位置するもので、荒俣宏旧蔵博物誌コレクションには、他に『オウムの自然誌』などが含まれる。図版は、ホウカンチョウ（鳳冠鳥）（Le Colombi-Hocco Male）。和名は頭にある冠のような羽が宝冠を連想させることに由来している。菜食の鳥で、飛翔力は弱い。地上からそれほど高くない樹木に枝をからめた簡単な巣を作ると言われている。中南米に 44 種が分布すると言われている。

＜展示ケース２＞ 荒俣宏博物誌コレクション（２）

Cory, Charles Barney. **Oiseaux de Haïti.**[Paris：s.n. , 1885?]

（コリー『ハイチの鳥類』） [120Y@492@1]

図版はスミレフウキンチョウ（Euphonia）。スズメ目ホオジロ科フウキンチョウ亜科の鳥。アメリカ大陸に分布。美麗な小型鳥で、ヨーロッパの貴族に愛玩された。スミレフウキンチョウは、フウキンチョウ類の中では比較的美しい鳴き声を持つため、ギリシア語で「声の良さ」をあらわす Euphonia と名付けられた。

Vieillot, Louis-Pierre. ***La galerie des oiseaux.*** Paris: Constant-Chantpie..., 1825.

（ヴィエイヨ『鳥類の展示室』） [120Y@517@2@1～2]

図版はイワドリ（Rupicola）〈左〉。スズメ目カザリドリ科の鳥。南米に分布。美しいオレンジ色は、カザリドリ科の鳥の中でも本種特有のものである。冠羽が独特の形をしており、オスは繁殖期にはこの冠羽を広げて求愛する。

図版はノガン（Otis）〈右〉。ツル目ノガン科の鳥の総称。ヨーロッパ、西南アジア、アフリカ、オーストラリアに分布。ノガン科の鳥は美味で、食用に捕獲されてきたため、生息数が激減した種も少なくない。

＜壁面＞

Audubon, John James. ***The birds of America***

[New facsimile ed.], Unsewn ed. Tokyo：Yushodo, 2014. [144Y@13@4@1]

「アメリカの鳥」は、画家そして自然・鳥類学者であるジョン・ジェームス・オーデュボン（1785-1851）が描いた北米の野鳥の図版集である。ダブルエレファントフォリオ判という１枚が約半畳ほどもある特大紙に、自然の中で生きる野鳥たちの姿が躍動的かつ繊麗に描かれている。オーデュボンが十数年の月日を費やし完成させ、1827 年から 1838 年にかけて出版した全 435 枚からなる図版集は、鳥類・博物画の傑作と言われ、アメリカだけでなく世界中の野鳥愛好家を今なお魅了している。

2014 年、この貴重な名作を雄松堂書店が限定 100 組のデラックスファクシミリ版として復刻させた。明星大学所蔵のオリジナルセットを原本にし、特別な用紙とインクを用いて忠実かつ原寸大で再現されている。同復刻版は、その撮影・製版および印刷に携わった大日本印刷株式会社（DNP）社長の北島義俊氏（塾員）より、2015 年慶應義塾図書館に寄贈された。また、この見事な復刻図版を鮮明かつ十二分に味わうことができるよう、DNP 開発の超低反射フィルムが用いられた特殊フレームも同時に寄贈された。

前期

Passenger Pigeon

リョコウバト　[Plate 62]

リョコウバトは、飛行中の大群に空が埋め尽くされ日の光が閉ざされたと云われるほど、かつてオーデュボンが生きた時代の北アメリカでは最も多く生息したとされる渡り鳥である。しかし、乱獲や生息地である森林の減少により劇的に数が減り、20 世紀初めに絶滅した。雌雄仲睦まじく描かれたこの鳥の生きた姿は、もはや見ることができない。

American White Pelican

アメリカシロペリカン　[Plate 311]

紙面いっぱいに堂々と描かれたアメリカシロペリカンは、北米最大級の大型鳥。特徴的な嘴上部の突起は、繁殖期に見られるものである。

後期

Cardinal Grosbeak

(Northern Cardinal)

ショウジョウコウカンチョウ[Plate 159]

その名の由来である枢機卿（Cardinali）がまとう緋色の衣のように、鮮やかな赤色の鳥。メスは黄褐色の体に、冠羽や翼先、尾羽が赤い。

Ruby-throated Humming Bird

ノドアカハチドリ　[Plate 47]

瞬きの間に切り取ったような、素早く羽ばたき花蜜を吸うノドアカハチドリの姿が描かれた図版。越冬のため北アメリカからメキシコへ縦断し、小さくて愛らしい姿からは想像もつかないほどの長距離を飛ぶ渡り鳥でもある。

＜展示ケース３＞ バンクス花譜集

Illustrations of Australian plants collected in 1770 during Captain Cook's voyage round the world in H.M.S. Endeavour / by Sir Joseph Banks and Daniel Solander, with determinations by James Britten.

Joseph　Banks　1900-1905

1768 年、ジョセフ・バンクスは、キャプテン・クックの第一回世界一周航海に同行し、その際に大量の植物標本とドローイングを持ち帰った。バンクスは植物図譜の出版を目指していたが、生前はバンクス自身の多忙さや、資金の欠如などによって完成しなかった。1905 年になって、バンクスの資料を受け継いだ大英博物館の自然史部門(現・ロンドン自然史博物館)が〝Illustrations of Australian plants”（『オーストラリア植物図譜』）を完成させた。多色刷りで、全作品が印刷された『バンクス花譜集』が刊行されたのは、1980 年代になってからである。

Dillenia alata はオーストラリアのエンデバー・リバーで発見された。熱帯雨林で育ち、大きな花をつける樹木である。　［3LB@112@1］

『植物図譜』図版 671　Cordyline fruticosa

太平洋での最初の寄港地であったソサエティ・アイランズ（ソシエテ諸島）で発見された植物。東南アジアや太平洋西部原産であるが、日本の南部でも見ることができる。この図版は、慶應義塾図書館開館 100 年記念の際、雄松堂より寄贈された。三田メディアセンター１階新聞ラウンジで常設展示されている。

花を題材とした世紀末の画家・デザイナーたち

印刷や染色の技術が進み、書籍やポスター、ファブリックなどにも鮮やかなデザインを描けるようになったこともあり、19 世紀末のヨーロッパでは、花を題材にした作品や、背景に華やかな花の図案を好む画家、デザイナーも多くみられた。

Jack Rennert and Alain *Weill Alphonse Mucha*：the complete posters and panels. Boston, Mass.：G.K. Hall, c1984.　[1LB@2921]

アール・ヌーヴォーを代表するチェコのグラフィックデザイナー、アルフォンス・ミュシャ(1860-1939)は、挿画家として活躍を始め、多くのポスター、装飾パネル、カレンダー等を制作した。星、宝石、花などの様々な概念を女性の姿を用いて表現するスタイルが特徴で、女優を題材としたポスターなども、背景を鮮やかな花々で埋めている。

Isobel Spencer. ***Walter Crane***. New York.：Macmillan, 1975. [B@757@Cr1@2]

イギリスの芸術家、ウォルター・クレーン(1845-1915)は、アーツ・アンド・クラフツに深く関わり、絵画、挿絵をはじめとして、装飾タイル、織物デザインまで、様々な装飾芸術作品を残している。人物とともに花をモチーフとした作品も多い。展示資料右頁は、『フローラ（花の女神）の饗宴』1889 年刊から、百合を題材としたもの。

Kate Greenaway. ***Marigold garden：pictures and rhymes.***
London：F. Warne, [1885] （ケイト・グリーナウェイ『マリーゴールドの庭』) [T@1@92]

イギリスの挿絵画家ケイト・グリーナウェイ(1846-1901)は、絵本やカードの制作を機に絵本作家として人気を得た。マザーグースの絵本などにより日本でも広く知られている。花などの装飾を多用した画風とともに、登場する少女達の服装に憧れる女子も多かった。

William Morris. ***A book of verse.*** London：Scolar Press, 1980.
（ウィリアム・モリス『詩の本』 1870 年作の複製版） [B@931@M13@3]

モダンデザインの父ともいわれるイギリスのウィリアム・モリス(1834-1896)は、室内装飾をはじめ、ステンドグラスなどの建築の装飾や書物の装飾など、様々な分野の装飾を手掛けた。手仕事により美しいものを生み出すことに喜びを見出すモリスは、友人への贈り物として製作したこの手稿本においても、自筆の詩の行間をさらに美しい花々の絵で埋めている。

『英国の花たち』 シシリー・メアリー・バーカー著 ; 井村君江訳・監修
東京 ： 主婦の友社, 2014.5 [A@931.7@Ba2@1]
原書名:The complete book of the flower fairies. Frederick Warne, 1948

イギリスの挿絵画家シシリー・メアリー・バーカー(1895-1973)の代表作、「花の妖精」シリーズと呼ばれる妖精詩画集は、1970 年代に森永製菓のチョコレートにカードとして封入され多くの日本人の目にとまった。多くの花々が取り上げられ、色鮮やかに描かれている。

＜展示ケース４＞ 浮世絵

ボン浮世絵コレクションについて

George S. Bonn(1913-2003)が収集した浮世絵コレクション。図書館学の研究者であった Bonn 氏は、ニューヨーク公共図書館課長・ハワイ大学・イリノイ大学教員などの職を歴任した。昭和 29～30 年にかけては、慶應義塾大学図書館学科の訪問教授を務めており、浮世絵コレクションは義塾教員時代や、その後の来日の度に収集したと考えられる。慶應義塾図書館に寄贈された 860 点余りの作品は主に明治期の浮世絵で占められ、文明開化による舶来の珍しい文物や異国人、建物などの様子が極彩色で描かれている。

幾英　**「新吉原全盛之桜」**

明治 20 年（1888）　永松作五郎　大判錦絵１枚

浮世絵というと江戸時代のイメージがつきがちだが、実際は明治期にも描かれ続けていた。幕末から明治には舶来顔料の導入により、江戸時代の浮世絵と比べるとどぎついばかりに鮮やかな色調の作品が生み出された。本作は、広重の「東都名所吉原夜桜之図」と同じく新吉原仲之町（なかのちょう）の花魁道中を描いた小林幾英の作品である。明治の世となっても仲之町の桜並木は咲き誇り、黒塗りの高下駄・まな板帯を体の前に結んで大量のかんざしを挿した花魁・禿（かむろ）の少女・箱提灯・赤色をわずかにのぞかせた「返し襟」など、吉原の伝統的な風俗が息づいていたことがわかる情景である。

前期　［201X@13@1］（ボンコレクション）

幾英　**「上野東照宮真景」**明治 23 年(1890)　永松作五郎 大判錦絵１枚

松尾芭蕉が「花の雲鐘は上野か浅草か」と詠んだように、古くから上野・浅草は桜の名所だった。この句の上野、つまり寛永寺の広大な境内の一角には上野東照宮が作られた。天海らが創建したこの神社は、戊辰戦争や関東大震災・太平洋戦争もくぐりぬけて現在も上野動物園の近くにたたずみ、牡丹と桜の名所として名を馳せている。描かれているのは、豪華に金箔を施した唐門と扉の奥に見え隠れする社殿、大名たちが寄進した大きな石灯籠が立ち並ぶ壮麗な参道である。日本髪に和服の女性や僧侶・神職らしき人物がいる一方で洋装・断髪の男性、洋傘を持った女性が桜の下を歩く様子に、明治時代の雰囲気が感じられる。

後期　［201X@12@1］（ボンコレクション）

広重　**「東都名所吉原夜桜之図」**　江戸期　佐野屋喜兵衛　大判錦絵１枚

吉原遊郭のメインストリート、仲之町（なかのちょう）の桜並木と華やかな花魁道中の図。歌舞伎舞台でも再現されるこの桜並木は、花の季節にだけ作られた。毎年三月一日に合わせて数十本の桜が移植され、花が終わるとまた撤去されるというなんとも贅沢なお花見である。遊郭内には江戸町・京町・伏見町などの区画があり、広重が描いたこの絵の舞台は江戸町一丁目

につながる木戸の前。夜桜との題が語る通り、薄暗い画面にはほんのりと桜の花や雪洞（ぼんぼり）・提灯の光が浮かび、遊女たち以外にも花魁道中の見物人や仕出し料理を運ぶ人物など、さざめく声が聞こえてきそうな細かな群像が描き込まれている。

前期　［133X@30@1］

広重　**「新鐫江戸名所　上野東叡山花盛之図」**江戸期　大判錦絵１枚

徳川将軍たちは庶民の気晴らしや暴動予防のために市中に様々な花見の場を整備した。中でも家光の世に天海が吉野の桜を移植した上野は「江戸第一の桜花の名勝にして、一山花にあらずといふ所なし」と称賛され、現在まで花見スポットに欠かせない存在である。画題の東叡山とは寛永寺を示し、明治維新まで境内は現在の上野公園が入るほど広大なものであった。徳川家の菩提寺という事情で、寛永寺の花見は「なまものを食すのは禁止、夜桜見物やどんちゃん騒ぎ禁止」など制約があった反面、上品で風流な雰囲気だったという。本作に描き込まれた法華堂・常行堂、それらを結ぶ高廊下は現存せず、記憶と想像の中にのみ残る風景である。

後期　［133X@85@1］

＜展示ケース５＞ 奈良絵本・絵巻

前期

『鳥歌合画巻（雀の発心）』　[室町末江戸初]写　伝土佐広周筆　絵巻　１軸

[132X@35@1]

箱書に『鳥歌合画巻』とあるが、一般には『雀の発心』の名で知られる物語である。室町末期の絵巻は数点現存するが、慶應本の特徴は和歌が非常に多くそれぞれに絵が描かれている点にある。文学部出身の国文学者・横山重（1896-1980）の旧蔵書である。物語の内容は、雀の夫婦がえさを求めていなくなったすきに、蛇が小雀を食べてしまうというもの。雀夫婦が説教をした蛇が歌を詠み、鷲、隼、鶯、雁といった鳥が慰めの和歌を詠んでいる。

後期

『四十二の物あらそひ』［室町末江戸初期］写 1 冊　　［110X@446@1］

歌合、香合、絵合といった左右に分かれて物事を比べて優劣を争う「物合せ」と、春と秋の優劣を論ずる「春秋の争い」という日本古来の遊戯や論議を背景に成立した作品。物語の舞台は平城の帝の時代、帝が春宮の御所へ赴いたところ、春と秋の争いから四十二の物争いをすることになり、月の夜と春の朝といったさまざまな題で和歌が詠まれ、競い合いとなる。背景には物語に合わせた花や鳥が色鮮やかに描かれている。また本物語は室町末期の奈良絵本から江戸中後期の写本まで、伝本が非常に多いことでも知られる。古奈良絵本として最も美しく仕立てられたものといえる本書は、文学部出身の国文学者・横山重の旧蔵書である。

後期

『小倉山百人一首』　［藤原定家］撰　［江戸時代前期］写　奈良絵本　1 冊

［132X@172@1］

「百人一首」は 100 人の歌人から一首ずつ秀歌を集めたもので、鎌倉時代前期の歌人として著名な藤原定家が、京都嵯峨小倉山にあった岳父・宇都宮頼綱の別荘の障子に貼る色紙用に撰んだというのが定説である。そのため「小倉百人一首」「小倉山庄色紙和歌」という名で呼ばれることもある。本書は、繊細な筆致と鮮やかな彩色で描かれた歌人の肖像（歌仙絵）が挿絵となっている写本で、室町時代末期から江戸時代前期に作成された絵入りの写本「奈良絵本」の系統に属する。書体は寛永の三筆と称される昭乗を祖とし、流麗な仮名が特徴の松花堂流、金糸で文様を織り出した金襴表紙、金色の見返しなど、装丁も美しい資料である。図版は「花」が詠まれた小野小町の著名な歌「花の色は　うつりにけりな　いたづらに　わが身世にふる　ながめせしまに」の部分。

＜展示ケース６＞ 和装本（１）

『契花百菊』3 巻　存巻 1,2　長谷川 契華 京都: 田中治兵衛; 山田直三郎
明治 26 刊(1893)　[209@406@2@1～2]（荒俣コレクション）

明治初期の京都の美術出版社である、文求堂の田中治兵衛と、当時の奉公人で後に芸艸堂創業者となる山田直三郎から出版された、長谷川契華による菊の図譜。菊は奈良時代に中国から日本に伝えられ、当初は薬用で用いられたのが、平安時代になり栽培が復興し、江戸時代には庶民にも広まり、品種改良が発展した。百種余りの菊が多色刷木版で色鮮やかに再現されている。

『櫻花圖譜』2 帖　三好学　[芸艸堂],1921.5
[1WA@69@1～2]

本書は、理学博士で植物学者の三好学（1862-1939）の著書。三好は日本の植物生理学、植物生態学研究の基礎を作った。「桜博士」と言われるように、桜の研究家としても知られ、数多くの論文、著書を残している。また、天然記念物の保存法規を作り各地を廻ってその保護を指導した。本書は木版多色刷りで計 118 種類の桜の花が紹介されている。

＜展示ケース７＞ 和装本（２）

『花菖蒲図譜(外)』4 巻 存巻 1　三好学　[芸艸堂], 大正 9 序[1922(大正 11)刊]
英文書名: Iris Laevigata Fisch: 1105 coloured plates by Manabu Miyoshi.
[209@411@1]（荒俣コレクション）

『櫻花圖譜』と同じく三好学の著書。三好が東京帝国大学理学部で花菖蒲の研究のために作成した写生図の一部で、佐藤醇吉が書いた多色木版図。この原図は明治 44（1908）年に、天皇陛下の同大学御行幸の際に天覧に供されたとの前書きがある。全 4 巻で約 100 種類が収録されているが、本学では 1 巻のみ所蔵。花菖蒲は江戸時代の中ごろより各地に自生する花菖蒲を改良し、享和年間には堀切菖蒲園が開園し江戸の名所となった。

『虫類画譜』 1 帖　宿屋飯盛[石川雅望][撰] ; 哥麿[喜多川歌麿一世]筆
東京 大倉書店　明治 25 年刊　[204@228@1]

江戸時代の浮世絵師である喜多川歌麿（1753-1806）が江戸時代に描いた、草花と虫の風流絵本『画本虫撰』が、明治になり復刻されたもの。石川雅望が選んだ、虫を詠題とした狂歌にあわせて、歌麿が草花と虫を画いた木版絵本。雲母、胡粉なども用い、絵の具をつけずに版の凹凸のみで模様をつける空摺や、ぼかし、きめだし等の摺りの技術なども組み合わされた豪華な絵本として知られている。

前期

『北齋叢畫花鳥畫譜』 画狂老人[葛飾北斎一世][画] 刊年不明
[149@127@1]

北斎（1760-1849）は、役者絵、黄表紙、擦物、狂歌絵本、錦絵、読本挿絵、絵手本、風景画、花鳥画、肉筆画と、取り組む題材や分野を替え、膨大な作品を残した。北斎が、代表作「北斎漫画」を始めとする版本形式の絵手本を多数出版したのは、門人や私淑者の手本としてや、下絵に利用する工芸職人の需要に応えるといった理由からと考えられている。

「北齋叢畫花鳥畫譜」は類書が確認できず、後世に編集、彩色されたものとも考えられるが、四季折々の花鳥を描いた見事な表現と構図は、鮮やかな花鳥版画の連作を彷彿とさせる。

後期

『良美灑筆』 葛飾戴斗[葛飾北斎]画 江戸 : 美濃屋伊六ほか　文政 3 年(1820)序刊
[110X@497@1]

「良美灑筆」は大半の絵手本と違って特定のテーマは持たず、故事、一般風俗、花鳥、山水などがまとめられ、淡彩刷で、淡い朱色が効果的に使われている。一般には「北斎麁画」の表題を持つ改題本が多く流布しており、「良美灑筆」の題箋を持ち現存するものは少ない。展示する右頁の「石竹」はナデシコ科の花。左頁は山吹の花に文鳥と雀という豪華な構図である。